

令和5年度コレクション展Ⅲ

再発見!日本画の魅力

—画家たちが描いた自然と人—



三上巴峽《瀬戸内の春》1948年

小特集

山中雪人と水谷愛子

～夫婦で歩んだ日本画人生～



山中雪人《河》1964年



水谷愛子《おばあちゃん》2000年

2024(令和6)年

2月17日(土)▶4月14日(日)

開館時間:10時-17時(入館は16時30分まで)

休館日:火曜日

入館料:一般300(240)円 高校生180(140)円 小中生120(90)円

※()内は20人以上の団体料金。

※呉市在住の70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明書)。

※広島中央地域連携中枢都市圏(呉市、竹原市、東広島市、江田島市、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町)に在住の高校生以下の方は無料。

呉市立美術館

KURE MUNICIPAL MUSEUM OF ART

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内

TEL(0823)25-2007 FAX(0823)24-9813

URL:<https://www.kure-bi.jp/>



児玉希望《雨後》1927年



谷口仙花《レースのショール》《黄色い着物》《赤い着物》1939-55年



益井三重子《T氏像》1952年

令和5年度コレクション展Ⅲ

再発見! 日本画の魅力—画家たちが描いた自然と人—

【小特集】山中雪人と水谷愛子～夫婦で歩んだ日本画人生

明治以降、「日本画」は洋画に対置する新たな近代絵画として位置づけられ、独自の発展を遂げてきました。時代や生活様式の変化とともに、主題や技法、素材も変容し、今日では多様で個性的な表現が展開されています。しかし、日本美術に古くからある山水画や花鳥画、そして美人画、肖像画、歴史画などには、「自然」と「人」という普遍的なモチーフが描かれており、近代以降の画家たちも、伝統と革新のはざまの中で、これらの新しい表現に挑んできました。

本展では、当館所蔵の日本画における自然描写と人物表現に焦点を当て、描かれた題材や画家の視点を紐解きつつ、時代を越えて息づく日本画の魅力を紹介します。

また、呉市出身の日本画家・其阿弥赫土のアトリエの遺品から発見された大下図2点を、本画とともに初公開し、日本画の創作過程や画家の試行錯誤の痕跡を紹介します。

併設では、夫婦で初めて院展同人となった広島県出身の日本画家・山中雪人と水谷愛子の作品を特集展示します。

この機会に当館の日本画コレクションの新たな魅力を再発見していただけましたら幸いです。



奥田元宋《晴曠》1958年

関連イベント ※申込不要。当日の入館料が必要です。

■館長講座

「日本画の基礎知識 その1」 2月24日(土)

「日本画の基礎知識 その2」 3月2日(土)

時間：13:30～15:00

講師：呉市立美術館 館長 横山勝彦

定員：30名(先着順)

※入館チケット1枚で全2回参加できます。

■学芸員によるギャラリートーク

日時：2月18日(日)

3月10日(日)

3月24日(日)

各日11:00～(約30分)



呉市立美術館
KURE MUNICIPAL MUSEUM OF ART

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内
TEL(0823) 25-2007 FAX(0823)24-9813
URL:https://www.kure-bi.jp/